

	年齢	性別	世帯	概要	対応
1	60代	女性	独居	妄想性障害がある独居の方に対する、精神科病院からの退院支援	関係者でカンファレンスを実施し、情報共有と役割分担
				・生活保護 ・ロマンス詐欺に遭っているが「韓国アイドルが費用を払えば来る。」との妄想性障害あり。 ・R7.12.16～精神科病院へ医療保護入院。 ・がじゅまる+から高サポへ、退院カンファレンス出席依頼 退院課題・目標 ① 金銭管理（詐欺被害を繰り返さない） ② 医療継続 ③ 日中の居場所 ④ 連絡手段（スマホ保持で詐欺に遭うため、代替手段の検討）	入院前及び入院中にカンファレンス実施。 参加者：本人、長男、病院MSW・がじゅまる+・そら・高サポ・訪問看護 <金銭管理> そらが、“てるぼサポート”を提案するが本人拒否。 当面は、がじゅまる+が週1で現金管理 <医療継続> そらが通院同行。 訪問看護（医療保険）を利用。 <日中の居場所> 介護申請し、要介護1と認定。高サポにてCM調整。CMにて通所サービス調整。 <連絡手段> スマホ没収したが、本人が外出時にスマホを新規契約。 がじゅまる+が継続支援。
2	80代	女性	夫婦世帯	生活に支障をきたしている夫婦世帯への支援	退院後の施設調整（継続中）
				・初回相談は夫から「食べ物が無い。」とのことで、高サポの介入開始。 ・後日、妻が脱水にて体動困難となり入院調整。 ・夫は理解力が低く、衝動的な様子あり。	・本人の入院時に世帯で生活保護申請。 ・高サポにて退院後の施設探し、見学、入所対応、入所費用未払い時の対応など調整。 ・CMや施設管理者と情報共有し、サービス調整 ・夫の支援はそらと共に継続中。
3	70代	女性	同居	本人・長女ともに精神疾患があり救急搬送となった方への退院支援	施設入所を視野に退院調整
				・子ども2人と同居。 ・生活保護 ・本人うつ病。子ども達との同居でストレスを強く感じ、全身の痛みが出現。精神科病院入院中。 ・同居の長女は知的障害で元夫からのDVにより最近同居開始。本人に依存的。 ・同居の次男は統合失調症で引きこもり。妄想あり。拒薬や食事を摂らない状況。えくる介入中。	病院にて退院カンファレンス実施。 ・本人意向にて、退院後は子ども達とは別居し施設入所を希望。 ・MSW、高サポにて本人の施設探し実施。 ・えくるにて長女や次男のサポート実施。
4		－	－	退院後、ケアマネを決める際にトラブルとなったケース	ケアマネジャーに繋がるまで高サポが介入支援
				・家族からケアマネを探してほしいとの依頼あり。 ・事業所を数社案内し、家族が直接ケアマネと調整。 ・同じタイミングで、入院先医療機関でもケアマネを調整していたことが判明。	家族、病院それぞれから話を聞き取り、結果的に病院が探した居宅介護支援事業所との契約となったため、高サポが案内した居宅介護支援事業所は断った。
5	80代	男性	－	介入困難な方への継続支援	施設入所前後に医療機関及び施設への情報提供を繰り返し、継続支援に繋がった。
				・高サポや認知症初期集中支援チーム介入拒否の方。 ・着衣の汚染と悪臭あり。 ・医療が必要な状態であるが、入院しても自主退院をし、退院後体調が悪くなると、入院させるようにせまる。 ・病院側も対応に苦慮しているが、退院後は施設入所を条件に入院となった。MSWより施設入所のための連携を求められ、認定結果や年金額など情報提供を強く求められた。 ・他市の施設に入所したが、施設からも連携を図ることを強く求められた。	・地域包括支援課に相談。ある程度の情報を病院、施設に伝えた。 ・入所後は施設と情報共有しながら、施設のあるエリアの地域包括支援センターに繋ぎ、支援終了。 ・自宅退所になった場合は、再度支援再開していく。